

開催基本構想の策定にあたって

- 令和10年に、第82回国民スポーツ大会と第27回全国障害者スポーツ大会を長野県で開催
- 大会を意義あるものとするため、準備（実行）委員会をはじめ、構成団体や大会に関わる様々な人が、大会の目標を共有し、その実現のため、開催に向けた取組や開催気運を活用した取組を進めていく必要
- 開催基本構想は、開催基本方針に基づき、実施目標の実現に向けた取組の方向性を明らかにするもの
- 準備（実行）委員会では、専門委員会などにおいて、構想を踏まえた方針や計画、取組を具現化

国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会について

- 国民スポーツ大会とは
  - 毎年開催される国内最大の国民スポーツの祭典
- 全国障害者スポーツ大会とは
  - 毎年開催される障がい者スポーツの全国的な祭典
- 長野県における大会開催の意義
  - 県民に夢や希望を与え、スポーツに親しみ環境づくりや健康増進、地域の魅力向上につながる
  - 障がいに対する理解を深める機会が生まれ、障がいのある人も共に生きたる長野県づくりにつながる
  - 人々の交流の輪が広がるとともに、本県の魅力発信、観光や経済活動への効果波及が期待される

基本方針	実施目標	取組推進にあたっての共通視点	取組の方向	主な取組
1 スポーツで長野県を元気にする大会	SDGsを意識した取組の推進	3 持続可能な開発目標 (SDGs) 11 持続可能な都市とコミュニティ	● スポーツによる健康長寿世界一信州の実現	● ライフステージに応じたスポーツ活動の促進 ● 家庭や職場で簡単にできるスポーツの普及 ● 県内各地におけるスポーツ大会や合宿の誘致促進 ● 大会の競技会開催地のスポーツの「聖地」化
2 スポーツの振興を支える好循環を創出する大会	○ゼロカーボンの推進 ○大会運営のDX	4 持続可能な消費と生産 10 持続可能な産業と雇用	● 地域で育む未来のアスリート ● アスリートの人材確保 ● 障がい者スポーツ選手の発掘及び育成	● 少年選手の計画的な発掘及び育成・強化 ● 県内で活動するプロスポーツ選手やトップアスリートとの交流機会の確保 ● 「長野県競技力向上対策本部」を中心とした取組の推進 ● 選手の県内就職や競技活動を継続できる環境づくり ● 選手をはじめ、指導者・スタッフの発掘及び育成 ● 全国大会や国際大会への出場を視野に入れた選手の育成・強化
3 スポーツで共生社会づくりを加速する大会	○公正さや多様性を踏まえた取組の推進 ○信州の強みや地域の個性の活用	4 持続可能な消費と生産 5 持続可能な社会を築く 10 持続可能な産業と雇用	● スポーツを支える人材の育成 ● 国スポ・全障スポの一体的な開催 ● 障がい者スポーツと一般スポーツの融合の推進 ● スポーツで多様性を尊重する共生社会づくり	● 指導者の育成・確保や競技役員等の養成、活躍の場の拡大及び充実 ● スポーツボランティアの育成や活動支援 ● 両大会の開催準備や運営の一体的な推進 ● バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した大会運営 ● 障がい者スポーツの普及と、障がい者が身近な地域でスポーツを楽しめる環境づくり ● オリンピック・パラリンピック代表選手との交流機会の確保
4 スポーツの環境づくりを推進する大会	○長野冬季オリパラのレガシーを活かし、未来へつなぐ	3 持続可能な開発目標 (SDGs) 4 持続可能な消費と生産 11 持続可能な都市とコミュニティ	● いつでもどこでもスポーツに取組める環境づくり ● 開催地実施競技種目の普及	● 障がい者スポーツの紹介や楽しみ方の情報発信 ● 県民が広く参加できるスポーツ教室やスポーツイベントの開催 ● 大会開催に必要な競技施設や競技用具の整備などを通じたスポーツ環境の充実 ● 大会の競技会開催地における選手育成やトップアスリートとの交流機会の確保 ● 大会の競技会開催地における定期的な競技会の開催
5 スポーツが長野県のファンを増やす大会	○安全・安心・持続可能な大会運営	4 持続可能な消費と生産 8 持続可能なエネルギー 17 持続可能な都市とコミュニティ	● 県民参加のおもてなし ● 大会を通じた長野県の魅力発信	● 多くの県民が様々な形で自発的に参加する、大会の県民運動の展開 ● 障がいの有無や年齢、性別、国籍などにかかわらず、大会に参加する誰もが満足できる温かいおもてなし ● 地域資源を活用したおもてなし ● 競技観戦以外にも楽しめる文化プログラムの展開

「スポーツを通じた元氣な長野県づくり」の実現

